

本WSの射程と目標

研究倫理教育の設計と実践

■ 研究公正の推進に向けた取組み・対応

不正防止に向けた制度・システム構築

- 研究不正あるいは不適切な行為は起こり得るものと想定したうえで、その発生を防止するための制度的措置を講じる。
- 研究者個人の問題に還元せず、組織的な対応を図ることにより不正を防止する。

公正な研究活動の推進に向けた教育

- 研究活動に必要な知識、スキルの習得と共に、適切な研究活動へと内発的に動機づけるための教育体系を整備し、実践する。
- 学習・教育目標の設定を基盤とした教育の質保証システムの構築により、望ましい研究活動を推進する体制を構築する。

不正を防止し、公正な研究活動を推進するためには、

- 不正を未然に防ぐための制度、システムの整備、運用
 - 研究者個人の倫理的問題に対応するための知識、能力、態度の育成
- を併せて検討することが必要となる。

本WSの目的：公正な研究活動の推進に向けた教育の検討

■ 研究倫理教育の設計と実践

■ カリキュラムの設計

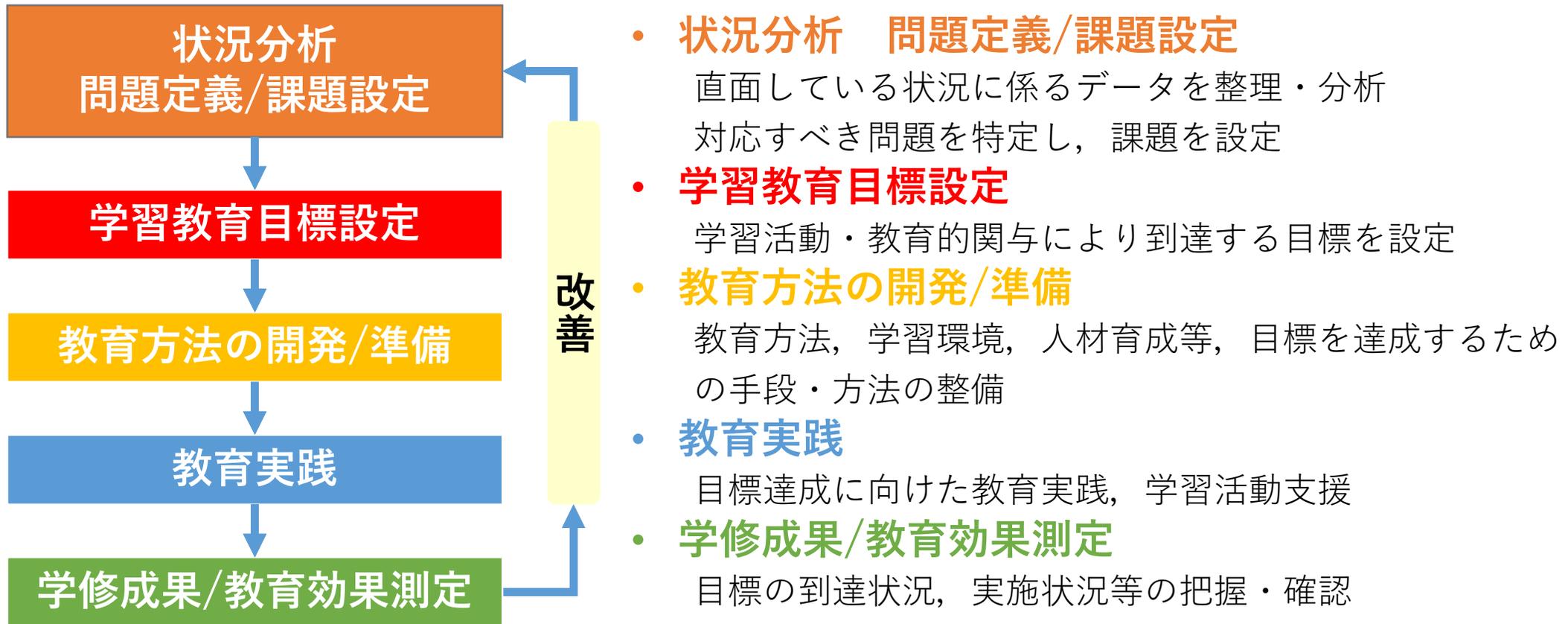
- 教育・研究機関の理念，特性に基づく教育目標の設定
 - それぞれの教育・研究機関が何を目指し，何を実現しようとしているのか？
 - それぞれの教育・研究機関が育成する人材像は何か？
- 教育・研究機関の状況に対応した課題の設定
 - それぞれの教育・研究機関が直面している問題は何か？
 - それぞれの教育・研究機関が設定する課題は何か？



■ 研修・講義の設計

- 研修や講義等が目指す目標の設定
 - その研修や講義を受講することで何ができるようになるのか？何が変わるのか？
- 目標達成のための教育手法，測定・評価方法の検討
 - 目標を達成するための教育方法，学習方法は何か？
 - 目標が達成されているか否かをどのように把握するのか？

■ カリキュラムの設計と改善：質保証に向けたマネジメント



近年，組織的にデータを活用したカリキュラムマネジメントの構築・実践が要求されている。
本WSでは，目標設定を中心としたカリキュラムあるいは講義・研修内容の設計に焦点を当てる。
(※ 教育方法の開発等に関するWSについては企画・検討中)

■ 本WSの目標：講義，ワークを通して期待する効果

1. 研究倫理教育の学習・教育目標の理解

- 倫理教育における学習・教育目標の3カテゴリを理解し，応用する。
 - ⇒学習・教育目標3カテゴリを応用し，所属機関の研究倫理教育の現状を点検する。
 - ⇒所属機関の研究倫理教育の問題点を理解し，課題について考える。
- 学習・教育目標に基づく教育方法，測定・評価方法を考える。
 - ⇒測定・評価を前提とした学習・教育目標の設定方法についての知見を得る。
 - ⇒測定・評価を意識した教育方法，学習方法を検討する。

2. 研究倫理教育カリキュラム，実施体制の検討

- 研究倫理教育カリキュラム，実施体制を点検する。
 - ⇒先進的な取組み事例を参考に，所属機関の抱える問題を点検，抽出する。
- 所属機関の課題を設定する。
 - ⇒対応すべき問題の優先順位，利用可能な資源などを踏まえ，研究倫理教育のカリキュラム，実施体制の改善案を検討する。